

寛政九



高名下



通油町
鶴屋版

押繪鳥癡漢

丁巳新鐫釋說

馬琴子
述作

13
2946
119



特
2946
119

押繪鳥癡漢高名序

情惟一人間の一生涯ハ蓋一部の小説なり余一日留仙

聊齋志異ハと讀ぐ頓甘むる事ハつり遂に撰

二卷の丹紙と作る六十四郎ハ一人の名あり。あつても一人の名あ

らば。又九十九母百。百の口二十文ぬきつりとて六十四郎と

生り。六十四愚者乃一心を通ト。書中に養人と得る。以

三十二郎と生。こ三十二文の不足と埋まり。在一時の寓言と

つと。若聊も採る事ハつり八千載の教訓と取るべし。

寛政九丁己の春
藤原庫曲亭馬琴老實の志



富澤町南新道

五ノ五ノ五

